総務政策委員会記録

開会年月日	令和3年2月10日
開会時刻	午前9時57分
閉会時刻	午前10時32分
出席委員名	◎小山 敏 ○山本正一 鈴木豊司 福井輝夫
	品川幸久 藤原清史 西山則夫
	浜口和久 議長
欠席委員名	なし
署名者	鈴木豊司 福井輝夫
担当書記	中野 諭
審査案件	総合計画推進事業に関する事項 継続調査案件 ・ 第3次伊勢市総合計画中期基本計画の策定について
説明員	情報戦略局長、情報戦略局次長、情報戦略局参事、企画調整課長
	その他関係参与

審査経過

小山委員長が開会を宣告し、会議成立宣言の後、会議録署名者に鈴木委員、福井委員を指名した。その後、直ちに議事に入り「総合計画推進事業に関する事項」を議題とし、当局から報告、報告への質疑を行い、「総合計画推進事業に関する事項」については継続して調査をすることを決定し、委員会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開会 午前9時57分

◎小山敏委員長

ただいまから総務政策委員会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立しております。

これより会議に入ります。

会議録署名者2名を委員長において、鈴木委員、福井委員の御兩名を指名いたします。

本日御協議願います案件は、「総合計画推進事業に関する事項」であります。

議事の進め方につきましては委員長に御一任いただきたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎小山敏委員長

御異議なしと認めます。

そのように取り計らいをさせていただきます。

【総合計画推進事業に関する事項について】

【第3次伊勢市総合計画中期基本計画の策定について】

◎小山敏委員長

それでは、「総合計画推進事業に関する事項について」の御審査を願います。

「第3次伊勢市総合計画中期基本計画の策定について」当局からの説明をお願いします。
企画調整課長。

●奥野企画調整課長

それでは、「第3次伊勢市総合計画中期基本計画の策定について」御説明申し上げます。
資料1を御覧ください。

1ページには、「1 第3次伊勢市総合計画の概要」につきまして改めて記載させていただいております。

(2) 計画の構成と期間を御覧ください。第3次伊勢市総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層により構成され、計画期間等概要は記載のとおりでございます。

網かけ部分のとおり基本計画の計画期間は4年間としており、現在の前期基本計画は、平成30年度から令和3年度までを計画期間としており、令和3年度末で満了となりますことから、これに続く中期基本計画の策定作業に入ってまいりたいと考えております。

次に、(3) 基本構想の概要でございますが、市の目指すべき将来像及び将来像を実現するための基本理念等を示すもので、計画期間を12年間としておりますことから、中期基本計画におきましても、記載にあるまちづくりの基本理念及びまちの将来像の実現を目指してまいります。

(4) には、現在の前期基本計画の概要を記載しておりますので御高覧ください。

続きまして、裏面の2ページを御覧ください。

「2 中期基本計画の策定について」御説明申し上げます。

(1) 中期基本計画の位置づけにつきましては、先ほど御説明いたしましたとおり基本計画、基本構想を実現するための施策の基本的な方針等を体系的に示したものとし、計画期間は令和4年度から令和7年度までとします。

また、(2) 策定方針といたしましては、前期基本計画の評価、有識者や公共的団体等の代表者などから構成される伊勢市総合計画審議会の答申、国際社会共通の目標であるSDGs、また新型コロナウイルス感染症による社会環境変化等を踏まえ、施策の基本的な方針等を定めてまいりたいと考えております。また、各種法令等に基づく個別計画との関係を整理するとともに、計画期間中の社会環境変化等に柔軟に対応可能な計画内容及び進行管理の方法を定めてまいりたいと考えております。

次に、(3) 策定体制については、経営戦略会議における協議等の全庁的な体制での取組を中心に、市議会との協議、伊勢市総合計画審議会への諮問、またパブリックコメント制度等による市民意見の把握を行います。

次に、(4) 策定期間については、基本計画において定める施策の基本的な方針の策定に当たっては議決を経ることとなっておりますことから、市議会へ議案を提出し、令和4年3月の策定を目指し、取り組んでまいりたいと考えております。

なお、中期基本計画の策定に当たりましては、各常任委員会及び協議会において策定状況について御説明申し上げ、御協議賜りたいと考えております。

最後に、「3 市民憲章の取扱い」について御説明申し上げます。

市民憲章につきましては、平成28年度に実施した市町村合併の検証において総合計画の次期基本構想策定時に検討するとしておりましたが、結論に至っておりません。このことから、中期基本計画の策定過程において、伊勢市総合計画審議会に市民憲章の取扱いについて御意見をいただくことといたしております。

以上、「第三次伊勢市総合計画中期基本計画の策定について」御説明申し上げます。

よろしく御願い申し上げます。

◎小山敏委員長

ただいまの説明に対しまして御発言はありますか。

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

おはようございます。市民憲章の記載がございますので、少しこの部分についてお尋ねをさせていただきたいと思っております。

先ほど説明がありましたように、平成28年2月には、平成30年度開始予定の前期の基

本構想策定時に検討するということであったかと思えます。私、平成31年3月に慣行の扱いということで一般質問をさせていただきました。そのとき市民憲章の必要性は認めていただいたわけですが、その取組の遅れにつきまして謝罪をされたところでありました。その上で、これからいろんな方に策定も含めて図ってまいりたいと、少しトーンダウンしたようなことであったかというふうに記憶をしております。平成31年の一般質問から2年が経過しようとしておるんですが、その間の取組状況はどうだったんかっていうことが1点。

それと今回ですね、総合計画審議会の意見を伺うということなんですが、審議会の意見を伺った後、どのような対応をしていくのか、その辺の考え方につきまして説明をいただけないでしょうか。

◎小山敏委員長
企画調整課長。

●奥野企画調整課長

先ほど御説明いただきました経過の後ですね、その後、地域審議会の皆様のほうに市民憲章につきまして要否を含めて御意見を伺ったところ、要・不要の各意見がございましたことから、どちらの意見も尊重するものとし、さらに今年度につきましては市民アンケートのほうにも項目を設けさせていただいたところがございます。

このような経過も踏まえまして、改めて中期基本計画策定過程におきまして、総合計画審議会に市民憲章の要・不要も含めまして、取扱いのほう御意見を伺いたいと考えております。以上でございます。

◎小山敏委員長
ちょっと答弁、審議会の意見を聞いた後どうするかということがちょっと。
企画調整課長。

●奥野企画調整課長

今回、基本構想を策定いただいたときに、その市民憲章に対するというか、市民憲章に相当する要素を盛り込むことが出来ているのではないかというふうにこちら考えておりました。平成30年6月の総合計画の審議会のいただきました答申におきましても、基本構想のまちづくりの基本理念は全ての行動規範のようなものというような御意見もいただいておりますことから、今回まず、要・不要の市民憲章の取扱いについて御意見を伺いまして、また、その御意見を伺った状況に応じて対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

◎小山敏委員長
鈴木委員。

○鈴木豊司委員

はい、分かりました。

それとですね、県下 13 市あるわけですが、その中で市民憲章の制定の状況というのはお分かりになりますか。

企画調整課長。

●奥野企画調整課長

新設合併をしております市のうち、制定済みのところが、伊賀市、松阪市、熊野市の 3 市でございます。

未制定のところは、いなべ市、桑名市、亀山市、津市、志摩市、それから伊勢市ということでございます。以上でございます。

◎小山敏委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

今ですね、未制定のところ大変たくさんあるんですが、これ合併前の市民憲章というのがそのまま継続されていないんですかね。されているように私は思っておったんですが違うのかな。

◎小山敏委員長

企画調整課長。

●奥野企画調整課長

新設合併ということですので、新市になってからは制定されておらないというふうに認識しております。以上でございます。

◎小山敏委員長

鈴木委員。

○鈴木豊司委員

最後します。この市民憲章そのものですね、まちづくりの理念であったり、方向性を明らかにしていくということなんでしょうが、過去、合併前になるんですが、いろんな大会の前に市民の皆さんが唱和していたような記憶もございます。

以前にも言わせてもらったんですが、伊勢のまちに誇りを持ってもらう、また市民がお互いにですね、尊重し合うとか、そういう伊勢の文化遺産を継承していくという面におきましてこの市民憲章そのもの、大変必要性があるというふうに考えておるわけですが、最後にですね、その市民憲章の必要性について、当局のお考えを再度お聞かせいただけないですか。

◎小山敏委員長

企画調整課長。

●奥野企画調整課長

先ほど御紹介いただきましたように市民憲章につきましては、将来のまちの理想像、市民として期待される姿というのを示して、その実現に向かう方向性でありますとか市民の方の行動規範目標のようなものになることと、市民の皆さんにそれをお示しするものと認識をしております。

市民の方として誇りや地域を愛する心、市民の心のよりどころとしてということで、市の総合計画における基本構想の理念的な前提とも考えられますことから、基本構想の策定時に検討するという事になっておりましたので、また改めて今回、中期の基本計画の策定過程におきまして審議会のほうに意見を聞かせていただきたいと考えております。以上でございます。

◎小山敏委員長

よろしいですか。

他に御発言はございませんか。

品川委員。

○品川幸久委員

私もちょっとそこの市民憲章のところでお伺いをしたいんですけど、なぜ今の時期に、後のこれ鳥とか花もそうなんですけど、何で今の時期にこうされたんかなってところが非常に分かりにくいんで。

先ほど鈴木委員も言われましたけど、この基本計画、伊勢市の総合計画というのを、伊勢市は特にまちづくりということを一生懸命やっとするわけなんで、まちづくりを進める中でこの市民憲章は非常に大事なことだと思っておるんですけど、これももう合併してから非常に年度がたっているわけなんで、なぜ今なのかなあと私は非常に不思議に思ってます。

それで合併の調整をしたときにですね、先進事例を見たときに、例えばひたちなか市ですと、平成7年5月に合併をして11月にはもうつくっておりますしね、西東京市というのは市政3年でやっています。この間ですね、埼玉県が市制20周年ということで、この間のこの2月定例会に市民憲章、これ20年かかっとするわけなんですけど、それまでの動きは全く見えなかったですよ。

私それがいつも市民の方によく問われるんがそうやと思うんですけど、私ども厚生学区でいつも新年の1月1日に市長さんも来ていただいてですね、顔合わせ会をします。そのときに必ず市民憲章を読むんですけど、そのときにやっぱり声が出てます。伊勢市の市民憲章はどうなっとなのや、と言いながら、やっぱり市長さんらも言葉を濁すだけですね、はっきりしたことが出なかった。

この間の時の教育委員会から総務のほうに文化とかああいうのを移しましたけど、それが何でこのタイミングなんかっていうところが一つ分かりません。何かを思いついたようにやり始める行政というふうに私感じるんですけど、そこら辺を端的に分かりやすく説明をしていただければありがたいかなと思ってます。

◎小山敏委員長
企画調整課長。

●奥野企画調整課長

申し訳ございません。経過のほうをまず再度ということで申し訳ございません。市民憲章につきましては、平成 28 年の 2 月の市町村合併の検証の中で、次期の総合計画の基本構想策定時に検討するということとさせていただいておりました。

第 3 次の総合計画の基本構想につきましては、総合計画審議会であるとか市民参加のワークショップ、伊勢市こども未来会議など、多くの市民の皆さんに参画をいただきまして策定したものでありまして、基本構想の基本理念や目指す将来像に市民憲章に相当する要素を含んだものと捉えてはおったんですけども、実際には至っていないものでございます。

その後、令和元年の 10 月から 11 月にかけて、地域審議会の皆様に市民憲章について可否を含めて御意見を伺ったところ、要・不要それぞれ意見がございましたので、どちらの意見も尊重するものとしまして、さらに今年度の市民アンケートにも項目を設けさせていただきました。

このような経過、流れの中におきまして、改めて基本計画、中期の基本計画の策定過程において審議会に御意見を賜りたいと考えておりますので、よろしく御理解賜りますようお願い申し上げます。

◎小山敏委員長
品川委員

○品川幸久委員

ここにね、第 1 回の令和元年度の第 1 回伊勢市地域審議会の概要が入るとるわけなんですけど、委員からの意見としては、「確認であるが、総合計画の基本構想に憲章の要素が含まれているため、2029 年度までに策定をしないということか。また、木や花については制定されていないこと自体を知らなかった」と。これ、おたくらが、この地域審議会にこんなんでございまして聞いたんがその時期なんですよね。なぜそれまでに、何で令和元年までほっといたんかなと、私はその理由を聞いておるんです。それまでにこうやっていて地域審議会に、平成ずっとやっとならなかつたわけなんで、そこんとところで伊勢市こういところで市民憲章や鳥も花も決まらなかつたんですけど皆さんどう思ってますかっていう話なんかは聞いたはずなんですよね。だから私が聞いたのは、なぜ今になつたんかっていうところがおたくら御答弁がないんで、ちょっとそこら辺だけで結構なんで、やる気がなかつたのかとか、例えばですね、地域にいろいろ問題があつて出来なかつたのかとか、そういうところが分からないんで、なぜ今の時期かということだけ、ちゃんとそこんとこの理由だけを教えていただきたい。なぜこの令和元年度の 1 回目の地域審議会にかけられたのかと。平成のときはかけへんだのは何でなんかなと。そこら辺が私は、ちょっと分からないんで。

市民の皆さんも、これにも書いてありますけど、市民憲章はどうなつとんのやなどよく聞かれるというのはそういうことやと思いますよ。受付で花や木はどうなんやと言うて何

回も聞かれていますよね。だから委員さんからもそういう意見が聞かれれば出るだけの話で、私どもその前にどうなっとなのやということは聞いてますんでね。

そやで、おたくらがなぜそこまでしなかった、先ほど鈴木委員が、私質問したのにどうなっとなのやていうのと同じでね。そこら辺は何でしてこなかったんかなっていうところが、なぜ今なのかなっていうところ、合併10年のときもチャンスもあったし、御代替わりの令和元年もチャンスがあったんですけど、それが分からないんで、そのとこだけ的確に教えていただければいいと思います。ちょっと責任ある人教えてください。

◎小山敏委員長

情報戦略局長。

●浦井情報戦略局長

合併調整項目の中に慣行の取扱いについてというものがございました。合併時の調整方針としましては、市章、市民憲章、市の花と木、これは新市において定めるというふうなところが合併時の調整方針というふうになっておりました。

しかしながら、今委員おっしゃっていただきましたとおり合併の10年を迎えての検証の際には、この慣行の取扱いについて今後の方向性というふうなところを御報告させていただいたところですが、その際には、市民憲章についてはまだ調整方針のとおりとなっておりませんでしたんですけども、次期基本構想策定時に検討するというところの方向性を報告をさせていただきましたところと、この後に入ってきますけれども、市の花と木は制定要望の高まりなど、制定の必要性があると認められる場合に制定するというふうな方向性のほうを合併の検証、10年を迎えての検証ということで御報告をさせていただきました。その後時間が過ぎてきたということになっております。

それで、市民憲章につきましては次期基本構想策定時に検討するというふうな方向性を示させていただいておりますので、そのことからいたしますと、本来でありますと第3次総合計画の策定というのは、時間的にはやってくるところでございます。

これにつきまして、先ほど課長のほうが申し上げましたように、事務局としましては、この基本構想策定に当たっては総合計画審議会や市民の参加いただきますワークショップ、伊勢市こども未来会議、地域審議会など多くの市民の皆さんに参画をいただきまして策定をいたしましたので、基本構想につきましてはこの市民憲章に値するような内容といえますか、そういったものを盛り込めたんじゃないかというふうに考えておりましたんですけども、この10年の合併検証の際に次期基本構想策定時に検討するというふうな方向性も示しておきながら、総合計画審議会のところで定かにその必要性のようなところにつきましてお諮りをしておりませんでしたので、今回の中期基本計画を策定する際におきましてはこれまでの経過も含めてお話をさせていただきまして、総合計画審議会のほうに御意見のほうを頂戴したいというふうに思っております。以上です。

◎小山敏委員長

品川委員。

○品川幸久委員

やっていただくことは私も望んでおることなんでね、進めていただくのは結構やと思います。

ただ、市民憲章というのはどこの市民憲章を見ても非常に言葉端的であって、伊勢市で、旧伊勢市になりますよね、「自然を愛し、歴史を尊び、清く美しいまちをつくりましょう」とかなつとるわけなんですけど、5項目ぐらいあるわけなんですけど、これをなぶるということは、言葉を変えることは非常に難しいのかなと思いつつながら、中には市民憲章を制定するのに非常に時間がかかると。審議会にかけてから何十年とかかかるところもあるんでね、今日言うて、人の意見を集めてすぐ明日という、ほとんど多分難しいんじゃないかなと思うんですけど、その点だけどう考えておるか教えてください。

◎小山敏委員長

情報戦略局長。

●浦井情報戦略局長

ただいま品川委員のほうから御紹介いただきましたとおり旧の伊勢市におきましては5項目が市民憲章のほうで挙げられておりました。

こちらの旧伊勢市におきます市民憲章についても、伊勢市民一人一人の力で住みよい明るい豊かなまちづくりを進めるため、市民生活の精神的規範としてこの市民憲章を定めるというような背景があったと思っております。

こちらについてなんですけれども、先ほど課長のほうからも御紹介させていただきましたが、総合計画の策定に当たって総合計画審議会の皆さんのほうから答申をいただいとるんですけれども、その答申の中においては、基本構想のまちづくりの基本理念は全ての行動規範のようなもので、それに基づいて基本計画を策定するというふうな市と審議会のほうが一致した考え方をもちながら審議に当たったと、このような経過報告をいただいております。

そして、先ほど申し上げましたとおりこの基本構想については多くの市民の皆さんに参画をいただいて策定しておりますので、12年間のこの総合計画でございましてけれども、市民一人一人が伊勢のまちづくりを進めるための一つの目標・理念というふうにつくっておりますので、その点も踏まえまして、この後の中期基本計画策定に当たって審議会のほうに御意見のほうをちょうだいしたいと思っております。以上です。

◎小山敏委員長

他に御発言はありますか。

藤原委員。

○藤原清史委員

今、品川委員のほうから私の言いたいことはほとんど言っていたんですけども、私もこの議事録ですね、各地域の小俣、二見、御菌それぞれの地域審議会のほうの議事録を見てますと、この市民憲章に関しては、当局のほうから基本構想にある程度理念で載っ

てるからというような説明の仕方で議事を進めてきたような感じが私は取れたんですね、議事録を見て。ですので、当局としてはもう市民憲章をつくらないのかなっていうように取ったんですけども、今、いろいろ説明を聞いて、これからまた考えて行っていくということですけども、私もちょっとその辺がちょっと腑に落ちなかったので今こうやって質問をさせてもらったんですけども。

私もどっちかといったら市民憲章、厚生学区のほうで毎年今、品川委員言われたように、みんなで読んで一つの気持ちになって1年をスタートしてきたという、ずっと気持ちで来てますので、やっぱり必要じゃないかなという気持ちがものすごくあるわけなんですね。

ですから、今後の地域審議会あるいはこの基本構想の審議会のほうでも、そういう当局の気持ちというよりも、やっぱり市民の気持ちを第一に進めていっていただきたいなと思うんですけども、その辺だけちょっと要望というか希望でお願いしたいと思います。

◎小山敏委員長
情報戦略局長。

●浦井情報戦略局長

ただいま御意見いただきましたとおり地域審議会における御意見につきましては両論、どちらがどっちってというのは採決をとつとるわけじゃありませんので、御意見をちょうだいしております。その中には、制定する方向性の意見、それから制定しないでもいいんじゃないのっていうふうな御意見と両方がございました。

それから、これに基づいた引き続いてアンケートのほうも取らせていただいておりますけれども、そちらのアンケートのほうも、この後また市議会のほうにもアンケート結果のほうは報告をさせていただきますが、こちらについては、市民憲章は必要だと思いますかという部分については、必要であるという意見が41%、どちらとも言えないっていうふうなのが46%、必要ないというふうな方が14%ということで、どちらもどちらっていうふうな御意見もちょうだいしております。

このようなことも踏まえて総合計画審議会のほうに御意見をちょうだいしたいと思っておりますので、まずは一旦このところでお願いしたいと思っております。以上です。

◎小山敏委員長
他に御発言はございませんか。
福井委員。

○福井輝夫委員

今、3人の方々がこの市民憲章について御質問していただいておりますので、もうあらかじめ全て言っていただいているということで、私もそういうことはないんですが、今、けど、お聞きしておると、市当局のほうがこの市民憲章を積極的に作ろうかどうかという、どうもその姿勢が見受けられないのではないかなというような感じをしました。

今回、教育委員会の文化振興課が情報戦略局に移ったということもあったものですから、それで今回市民憲章について今回こういう項目を出てきたということで私は、市としては

市民憲章を積極的にこれからちょっとやっつけていこうかなというんじゃないかなという、すごくそういう感じておったんですが、どうもそういう感じではないということで、ちょっとその辺がどんなんかなと思いました。

市民憲章とは何ぞやというのでいろいろ見てみますとですね、やっぱり一つの自治体に住む住民が互いに横のつながりを持って良い生活を築こうという考えを表したというようなこととか、市民としての誇りを持ち、自らつくった環境に責任を感じ、その文化遺産を尊重し、継承するという市民の合意や約束、願いを表したものであるということで、伊勢市の市民のいろんなことを簡潔に表したようなものが市民憲章ということになるかと思いますので、今までの中での基本計画の中にも書いてあるとはいうものの、こういうものをぼんと大きく出してですね、市民にそういう部分についての認識をしていただくというのは非常に大事なかなと私は思ったわけです。

今回、文化振興課の件もありましたので、この中に文化遺産を尊重し継承するという部分についても市民憲章の中での大きな目標の中にあるということだったのですから、今回の大きな機構改革の契機にですね、市民憲章についてもちょっとじっくり考えていただけないかなと、私はそう思っております。

この地域審議会も、これからどんどん役割というのを果たし終えたから今後なくなっていくという方向もあるんじゃないかと思っておりますので、そういう市民の意見を聞く機会もだんだん減ってくるかと思っております。

今回は、総合計画審議会ということで諮るということですけども、そういう部分について、この市民憲章についての考え方ですね、進め方ですね、それについて今回を契機にというようなことが全然ないのか、ちょっとお聞かせください。

○小山敏委員長
情報戦略局長。

●浦井情報戦略局長

繰り返しになってしまっていて大変申し訳ないんですけども、そもそもが慣行の取扱いが合併の調整項目に挙がっておりまして、それも新市において定めるところの扱いで、調整項目としての調整方針というのは定まっております。

その後10年経過して、次期基本構想策定時にというふうなところがあって、その後が私どものほうが明確に審議をしていただかずには持ってしまったというところもございます。

今日の福井委員あるいは品川委員、鈴木委員のほうからも御意見をいただいた部分もきちんと踏まえまして、この後の総合計画審議会のほうの御意見もちょうだいをして判断をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

◎小山敏委員長
福井委員。

○福井輝夫委員

ありがとうございました。今回これからですね、これについての意見をいただくという

状況になっておるんですけども、伊勢市としてはどうしていきたいんやというような部分がないとですね、全然意見はまとまらないんじゃないかと私は思っておるわけです。

伊勢市としては、別にもう中期計画等の中に入ってるからいいんじゃないかという考えなのか、それともやっぱり市民憲章が必要なんだと思っておるのか、そういう部分ですね、やはり鮮明に出す必要があるんじゃないかと、私は今の時期だと思ってるんですけども、そういう部分については今すぐ答えよと言うたら答えるんか分かりませんが、そういう部分についてですね、もっと市としての態度ですね、積極的に検討していただきたいと思います。それ以上は聞きません、以上です。

◎小山敏委員長
情報戦略局長。

●浦井情報戦略局長

いずれにいたしましても、市民の皆さんと心を合わせながらまちづくりを進めていかないかというふうに思っておりますので、その上で、この市民憲章なり総合計画のありようが大変大事だというふうに思っておりますので、いずれにしましても市民の皆さんとともにまちづくりを進めていくという位置づけの中でどういったものが必要かという部分も含めて、この後いろいろな御意見をちょうだいしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

◎小山敏委員長
他に御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎小山敏委員長
他に発言もないようですので、説明に対しての質問を終わります。
続いて委員間の自由討議を行います。
御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎小山敏委員長
御発言もないようですので、自由討議を終わります。
以上で、「第3次伊勢市総合計画中期基本計画の策定について」を終わります。
「総合計画推進事業に関する事項」につきましては、引き続き調査を継続していくということで御異議ありませんか。
御異議なしと認めます。
本件については引き続き調査を継続いたします。
以上で御審査いただきます案件は終わりましたので、これをもちまして、総務政策委員会を閉会いたします。
御苦労さんでした。

閉会 午前10時32分

上記署名する。

令和3年2月10日

委員 長

委 員

委 員